

SEE



49 & 25

日本語ユーザーガイド

www.hookup.co.jp

nektar

目次

イントロダクション	4
同梱内容.....	4
SE25/49の機能.....	4
システム条件.....	4
概要	5
さあ始めましょう	6
接続と電源.....	6
Nektar DAWインテグレーション.....	6
汎用コントローラーとしての利用.....	6
キーボード、パフォーマンスボタン、ホイールとフットスイッチ	7
オクターブとトランスポーズシフト.....	7
オクターブボタンを使用したプログラム、MIDIチャンネルとプリセット操作.....	7
トランスポーズボタンを使用したプログラム、MIDIチャンネルとプリセット操作.....	7
ピッチベンドとモジュレーションホイール.....	7
フットスイッチ.....	7
MIDIソフトウェアの操作	8
設定 (Setup) メニュー	9
SE49.....	9
SE25.....	12
ファクトリーリストア	15
DAW設定ガイド	16
Bitwig Studio.....	16
Cubase/Nuendo.....	18
Digital Performer.....	20
FL Studio.....	22
GarageBand.....	24
Logic X.....	25
Mixcraft 7.....	27
Reaper.....	28
Reason.....	30
Sonar.....	32
Studio One.....	34
Nektar DAWインテグレーションを使用しないトランスポートコントロール.....	36

本製品を安全にご利用頂くため、食物、水分や液体等から遠ざけ、製品の動作に影響を及ぼす要素の混入を防止に努めてください。機器の外装保護の観点でもそのような環境でのご仕様は避けて下さい。また、本ガイドで解説する範囲内の用途でご使用下さい。

注意：本製品は、クラスBのデジタル機器としてのFCC規制のPart 15への適合検査をパスしています。この制限によって、本製品は住宅に設置する際に有害な干渉を防止する適切な保護を提供するように設計されています。本製品は、指示に従って設置および使用しない場合、無線通信に有害な干渉を引き起こす可能性や、電波エネルギーを放射する可能性があります。ただし、特定の設置条件で干渉が発生しないという保証はありません。本製品の利用によって、ラジオやテレビの受信に干渉を起こした場合、ユーザーは次のいずれかの方法で干渉を解消します。

- 受信アンテナの向きや位置を変えます。
- 装置と受信機の距離を離します。
- 受信機が接続されているものとは別回路のコンセントに機器を接続します。
- 販売店または経験のある電気または電波技術者に相談します。



CALIFORNIA PROP65 WARNING: 米カリフォルニア州で策定されています製品の表示義務に従い、本製品は人体に影響を及ぼす可能性がある化学物質が使用されています。ただしこれは微量で、無視できるレベルです。またご利用上、問題のない範囲内にあります。

詳しい情報は：www.nektartech.com/prop65

本製品に関するファームウェア、ソフトウェア及びマニュアル等の書類はNektar Technology, Incの財産であり、ライセンス同意によりユーザーに提供されません。

日本語に関する情報は、株式会社フックアップの資産であり、Nektar Technology, Incの許可を受けて作成しています。

© 2019 Nektar Technology, Inc. / HookUp, Inc.

NektarはNektar Technology, Inc. の登録商標です。

本製品に関するすべての記述及び仕様は予告なく変更することがあります。

クリーニングとメンテナンスについて

- 修理に関するすべての作業は弊社認定の専門技師によって行われます。
- 本製品の外装をクリーニングする際は、乾いた柔らかい布またはブラシをお使い下さい。
- クリーニング用の化学物や研磨剤は外装に損害を与える可能性があります。

修理に関する情報はこちらをご覧ください：<https://hookup.co.jp/support/>

イントロダクション

この度は、Nektar SE25/49 コントローラーキーボードをお求め頂き、誠に有難うございます。

SEシリーズには用途に合わせ、鍵盤数とサイズの異なるモデル：25と49が用意されています。加えて、多くの主要DAWソフトウェアでご利用頂くための設定ソフトウェアも付属します(ダウンロードにて提供)。これにより対応DAWの設定手順が簡略化され、これまでになく高いレベルでの操作を実現します。SE 49/25をより効果的にご利用頂くために、このガイドを一通りご覧頂くことをお勧めします。

SEシリーズのコントローラーはカスタマイズも可能で、ユーザーご自身でオリジナルの設定、構成が行えます。SE25/49で音楽制作や演奏をより一層お楽しみ頂ければ幸いです。

同梱内容

SE25/49には、以下のアイテムが同梱されています：

- SEコントローラーキーボード本体 (SE25 = 25ミニ鍵盤、SE49 = 49標準鍵盤)
- 印刷マニュアル(英語)
- USBケーブル
- 付属ソフトウェアのライセンスコードが記載されたカード
- 日本語のご案内等の書類

同梱物が不足あるいは破損している場合、お手数ですがご購入店あるいは弊社サポートまでご連絡下さい。

<https://hookup.co.jp/support/>

SE25/49の機能

- ペロシティ対応の25鍵ミニ鍵盤 (SE25)、49鍵標準サイズ鍵盤 (SE49) のコントローラー
- パフォーマンスボタン (SE49 = x4、SE25 = x6)
- トランスポートボタン (パフォーマンスボタンと兼用)
- ピッチベンドと設定変更可能なモジュレーションホイール (SE49のみ)
- コントロールスライダー (SE49のみ)
- 1/4インチ・フットスイッチ端子 (SE49のみ)
- USBポート (USBバス電源対応)
- 電源スイッチ
- 1/4インチ・フットスイッチ端子
- Apple USB Camera Connection Kit (別売) によるiPad接続対応
- Nektar DAWインテグレーション

システム条件

SE25/49はUSBクラスコンプライアントのMIDI機器として、Windows XP以降またはMac OS X環境で扱えます。DAWインテグレーションはWindows 7/8/10以降、Mac OS X 10.7以降の環境でインストールすることができます。

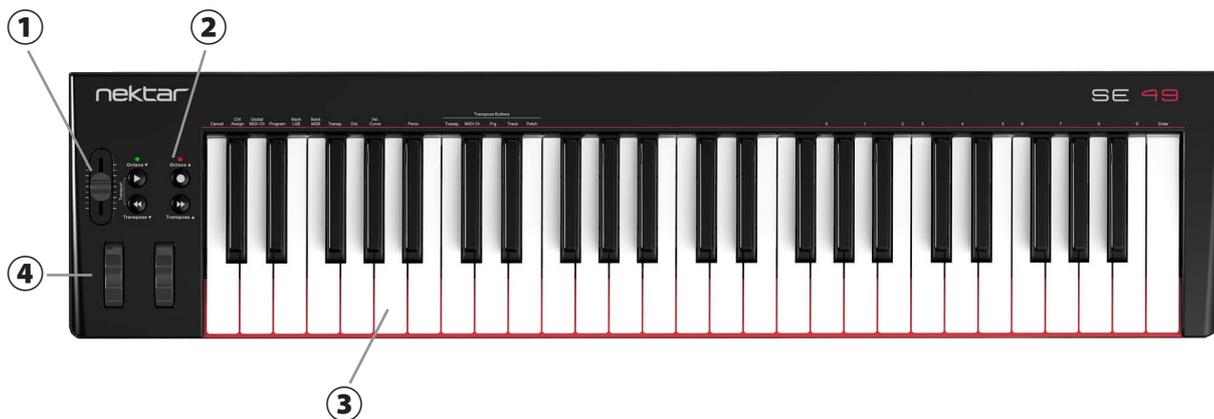
*システム条件内であってもすべての環境での動作を保証するものではありません。

*メーカーサポートが終了したシステム環境についてはサポート対象外となります。

*DAWインテグレーションは、ご利用のDAWソフトウェアのシステム条件もあわせてご確認ください。

SE49/25の概要

SE49の各部呼称とその概要です。



- ① **ボリュームスライダー**:MIDI音源やDAWのMIDIトラックの音量操作に使用します (MIDI設定による変更が可能)。
- ② **トランスポート/パフォーマンスボタン**:4個のボタンはNektarインテグレーション時にDAWのトランスポート:再生、停止、録音などの操作に使用します。これらのボタンはまた、オクターブシフト、トランスポーズ操作にも使用可能です (MIDI設定による変更が可能)。
- ③ **鍵盤**:ペロシティ対応のキーボードです。Setupメニュー時には各種パラメーター設定に使用します。
- ④ **ピッチバンドとモジュレーションホイール**:左側はピッチバンド、右側のホイールは主にモジュレーション操作時に使用します (MIDI設定による変更が可能)。
- ⑤ **USB端子**:コンピューターと接続するためのUSB端子です。このポートでコンピューターとのデータ転送およびコンピューターからの電源供給を受けます。
- ⑥ **Foot Switch (フットスイッチ) 端子**:別売のフットスイッチを接続するための標準サイズ (1/4") 端子です。本体の電源投入時に極性を自動検知します。通常はサスティペダル MIDI 情報を扱います (MIDI 設定の変更が可能)。
- ⑦ **Power On/Off (電源) スイッチ**:本体電源のオン/オフを行います。



SE25の各部呼称とその概要です。



- ① **ボリュームスライダー**:MIDI音源やDAWのMIDIトラックの音量操作に使用します (MIDI設定による変更が可能)。
- ② **トランスポート/パフォーマンスボタン**:6個のボタンの内、上4つはNektarインテグレーション時にDAWのトランスポート:再生、停止、録音などの操作に使用します。これらのボタンはまた、オクターブシフト、ピッチバンド操作も可能です。下の2つは、サスティンやモジュレーション、および特殊効果に使用します。(いずれのボタンもMIDI設定による変更可能)
- ③ **鍵盤**:ペロシティ対応のキーボードです。Setupメニュー時には各種パラメーター設定に使用します。

さあ、始めましょう

接続と電源

SE25/49はUSBクラスコンプライアントに準拠したMIDI機器です。そのため、特別なドライバーソフトウェアをインストールすることなく、WindowsやOS X標準のドライバーで動作し、コンピューターに接続するだけで認識されます。動作に必要な電源は、コンピューターのUSBポートから供給されます。

接続方法と手順はとても簡単です：

- 付属のUSBケーブルを使用して、SE25/49とコンピューターを接続します。
- (SE49) サスティンペダルを使用する場合、リアパネルのフットスイッチ端子に接続します。
- 電源スイッチをオンにします。

初めてコンピューターに接続した場合、SE25/49の認識に少し時間を要します。認識後、DAWの設定を行きましょう。

Nektar DAWインテグレーション

お使いのDAWソフトウェアがNektar DAWインテグレーションに対応している場合、専用の設定ソフトウェアがNektar社サイトに用意されています。ダウンロードの上インストールを行なって下さい。これによりシンプルな設定で高度なDAWコントロールが実現します。

最新版のファイルを入手するにはNektar社のウェブサイトに登録が必要です(英語でのサービス提供になります)：

www.nekartech.com/registration

重要なお知らせ：設定に関する情報はウェブページやPDFファイルとして公開しています。

SE25/49を汎用のMIDIコントローラーとして利用する

SE25/49は汎用のMIDIコントローラー・キーボードとして、OSX、Windows、iOS環境でご利用頂けます。

キーボード、パフォーマンスボタン、ホイールとフットスイッチ

SEシリーズの鍵盤はペロシティ対応のため、ご自身の好みや音源に合わせて、SE49では4種類のペロシティカーブと3段階の固定ペロシティ、SE25では3種類のペロシティカーブを選ぶことが可能です。

ご自身の演奏スタイルに合わせたペロシティカーブを選択して頂くことをお勧めします。ペロシティカーブ設定の詳細については本ガイドの10ページに記載しています。

オクターブ (Octave) とトランスポーズ (Transpose) シフト

鍵盤の左横には、キーボードの音域を変えるOctaveとTransposeシフトボタンが用意されています。

- 左側のOct - ボタンを押すことでキーボードの音域を1オクターブ下げます。
- 右側のOct + ボタンを押すことでキーボードの音域を1オクターブ上げます。
- 左側のTranspose ▼ ボタンを押すことでキーボードの音域を半音下げます。
- 右側のTranspose ▲ ボタンを押すことでキーボードの音域を半音上げます。
- ボタン操作を繰り返すことで、音域をさらに上下させることができます。

シフトされる範囲はモデルによって異なります。SE49では、下3オクターブ/上4オクターブにシフトすることが可能です。SE25では、下4オクターブ/上5オクターブにシフトすることが可能です。いずれのモデルもMIDI規格のノートの範囲(127ノート)を全てカバーします。

2つのボタンを同時に押すことで、音域は0ポジションに戻ります。

Transposeボタンはモデルに関わらず最大で上下12半音=1オクターブの変更が可能です。Transposeボタンで1オクターブ変更した場合、それに従ってOctaveボタンの操作範囲が制限されます。これはキーボードで演奏可能領域がMIDI規格のノートの範囲の逸脱しない為の措置です。

トランスポーズを設定した場合、2つのTransposeボタンを同時に押すことで、設定をリセットに出来ます。

*SE25では、ボタンにトランスポーズ設定を割り当てた際に操作可能になります。

ピッチベンドとモジュレーションホイール (SE49のみ)

OctaveとTransposeボタンの下には2つのホイールが用意されています。左側のホイールはピッチベンド、右側のホイールは主にモジュレーション操作に使用します。

ピッチベンドホイールはMIDIのピッチベンド情報を操り、演奏ノートの音程を上昇または下降させたい時に使用します。このホイールはバネにより手を離すとセンターに戻るようになっています。ベンド幅はこの情報を受け取る音源側で設定します。

モジュレーションホイールは、MIDIのコンティニューアスクонтроラー (CC) の情報を送信します。一般的にはビブラート (LFO) の深さやフィルターの開閉に使用されます。音源によってはダイナミクスコントロール、エフェクトの深さの操作に使用する場合もあり、その用途は様々です。通常、このホイールはMIDI規格で定められたModulation (MIDI CC #1) を扱いますが、別のMIDI情報に設定変更することも可能です。

いずれのホイールもデフォルト設定から別のMIDI情報に設定を扱うように変更することが可能で、これらの設定は、SE49の電源を落としても保持されます。

ピッチベンドボタン (SE25のみ)

Octaveボタン下の2つのボタンはそれぞれ、ピッチベンドのアップ/ダウンに使用します。設定によっては、トランスポート、ボリューム、パン、DAWトラックの選択*、プリセットパッチの選択*の操作に変更できます。

*DAWインテグレーション機能時

サスティンとパート2ボタン (SE25のみ)

"5"とラベルされたボタンは、サスティンのオン/オフに使用します。サスティンペダルと同様、ボタンを押さえた際のみ機能します。設定によっては、モジュレーションのスイッチとしても機能します。この際もサスティンと同様、ボタンを押さえた際のみ効果が適用されます。

"2"とラベルされたボタンは、パート2機能の操作をします。これはSE25に装備された特別な機能で、オンにした際、あらかじめ行なっておいた設定に従って、オクターブ上のハーモニー演奏または、別のMIDIチャンネルを送信する2つの音源を同時に重なったレイヤー演奏することが可能です。

フットスイッチ (SE49のみ)

SE49はフットスイッチ (Foot Switch) 端子を装備し、別売のフットスイッチを接続することでサスティンペダルなどとして使用が可能です。接続端子は標準的な1/4インチプラグに対応します。フットスイッチの極性は自動的に検知されます。

- SE49の電源をオフにします。
- フットスイッチを接続します。
- SE49の電源をオンにします。

MIDIソフトウェアの操作

SE25/49は、DAWやMIDIソフトウェアを柔軟に扱えるよう設計されています。豊富なコントロールと多彩な機能を快適に利用するためには、ご使用のソフトウェアや環境に合わせて設定が必要となります。

1. 公表されている対応DAWに対し、DAWインテグレーションファイルをインストールして設定を行います。
2. DAWや音源のラーン（コントロール信号の学習）機能を設定します。
3. その他、SE25/49のコントロールをお使いのソフトウェアに合わせて設定します。

Nektarが用意されたDAWインテグレーションファイルを使用する場合、ウェブサイトおよび設定ファイルに同梱のPDFガイドの記載に従ってインストールと設定を行います。

トランスポートボタン

SE25/49のトランスポートボタンはDAWインテグレーション対応のDAWの操作に使用します。詳しくは各DAWのガイドの項目に記載しています。



SE49のトランスポートボタン



SE25のトランスポートボタン

DAWインテグレーション時以外では、SE25/49のトランスポートボタンはMIDIスイッチとして機能します。

これらのスイッチは通常ソフトウェア側のMIDIラーンの際にお使い頂けますが、必要に応じてSE25/49の設定メニュー（Setup）でお好みのMIDI情報を割り当てすることも可能です。

フェーダー（SE49のみ）

本体左上のフェーダーはMIDIコントローラーとして使用します。通常はボリューム操作に適したMIDI CC#7が設定されていますが、設定メニューで変更することが可能です。

DAWインテグレーションした際は、主に選択トラックのボリュームを操作します。



設定 (Setup) メニュー

Setupメニューでは、コントロールの割り当て、プリセットの選択と保存、ベロシティカーブの変更など、様々な追加機能にアクセスできます。"SETUP"とラベルされた2つのボタンを同時に押した後、パネル上に印字された箇所の鍵盤を押し、設定を行ないます。この際、キーボードからのMIDIノート信号はミュートされます。

SE25と49ではメニューに関する鍵盤の位置が異なり、操作も若干異なります。メニューの箇所は実際に本体のパネル印字をご確認ください。

SE49



SE49の場合、メニュー鍵盤は2つのグループに大きく分けられます。最初のグループはC1-E2に位置し、一般的な設定メニューにアクセスします。もし、設定を中止したい場合、Cancelキー (C1) を押します。メニューを終了するには再度、Octave + と Transport Up ボタンを同時に押します (多くのメニューでは設定後自動的に設定メニューが解除されます)。

2番目のメニューグループはG3-C5に位置し、対象オプションで数値設定が必要な際に使用します。

*各メニューの詳細に関する記述はMIDIに関してご理解頂いていることを前提にしています。もしMIDIの役割、用語や基礎的な知識に関してご不明の場合は、コントロール設定を行う前にMIDIに関する理解を深められることをお勧めします。

Setupメニューに入ると鍵盤のMIDIノート出力はミュートされ、メニューアクセスと設定に使用されます。

以下、各メニューの詳細と設定方法です。

設定のキャンセル - Cancel - 鍵盤:C1

Enterキー (C5) で確定する前の設定した値をキャンセルする際に使用します。

コントロール情報(CC) 設定 - Control Assign - 鍵盤:C#1

このメニューは選択したコントローラーのMIDI CCの変更に使用します。(適用可能なコントローラーのみ)

SE49上のコントローラーのほとんどがMIDI CCの設定に対応しています。設定方法は以下の通りです:

- 鍵盤:C#1 (Control Assignとパネル印字) を押します。
- 目的のコントローラーを操作します。
- 数字(0-9)がパネル印字された鍵盤:G3 - B4で入力し、右端の鍵盤:C5 (Enterとパネル印字) で目的のMIDI CC#を設定します。

MIDIチャンネル設定 - Global MIDI Channel - 鍵盤:D1

SE49のMIDIチャンネルを設定手順は以下の通りです:

- 鍵盤: D1 (パネル印字 = Global MIDI Ch) を押します。
- 数字(0-9)がパネル印字された鍵盤:G3 - B4で入力し、右端の鍵盤:C5 (Enterとパネル印字) でMIDIチャンネル(1-16)を設定します。

プログラムチェンジ送信 - Program Change - 鍵盤:D#1

設定メニューでは以下の操作で、プログラムチェンジを直接送ることが出来ます:

- 鍵盤: D#1 (パネル印字 = Program) を押します。
- 数字(0-9)がパネル印字された鍵盤:G3 - B4で入力し、右端の鍵盤:C5 (Enterとパネル印字) で目的のプログラム番号の送信を実行します。
- これでプログラムチェンジが送信され、Setupメニューは自動で解除されます。

注意: 機器によってはプログラム番号の表示方法が異なります。0-127ではなく、1-128の表示を使用する場合、MIDIプログラムチェンジの0 = 機器のプログラム1番、つまり"1"を足した番号の呼び出しになることを覚えておきましょう。

バンク LSB - Bank LSB - 鍵盤:E1

この機能はMIDIのバンクチェンジ (LSB) を扱い、プログラムチェンジと共に音色プリセットの呼び出しに使用します。主にハードウェアのMIDI音源や機器に使用します。以下、バンクLSBの操作方法になります：

- 鍵盤：E1 (パネル印字 = Bank LSB) を押します。
- 数字 (0 - 9) がパネル印字された鍵盤：G3 - B4で入力し、右端の鍵盤：C5 (Enterとパネル印字) で目的のプログラム番号を設定します。
- これでプログラムチェンジが送信され、Setupメニューは自動で解除されます。

注意：機器によってはバンクチェンジを送信した後、プログラムチェンジを送る必要があります。また、機器によって番号の表示方法が異なります。0 - 127ではなく、1-128の表示を使用する場合、MIDIバンクチェンジの0 = 機器の最初のバンク、つまり"1"を足した番号の呼び出しになることを覚えておきましょう。

バンク MSB - Bank MSB - 鍵盤:F1

この機能はMIDIのバンクチェンジ (MSB) を扱い、プログラムチェンジと共に音色プリセットの呼び出しに使用します。主にハードウェアのMIDI音源や機器に使用します。以下、バンクMSBの操作方法になります：

- 鍵盤：F1 (パネル印字 = Bank MSB) を押します。
- 数字 (0 - 9) がパネル印字された鍵盤：G3 - B4で入力し、右端の鍵盤：C5 (Enterとパネル印字) で目的のプログラム番号を設定します。
- これでプログラムチェンジが送信され、Setupメニューは自動で解除されます。

トランスポーズ設定 - Transpose - 鍵盤:F#1

以下の操作で、キーボードのMIDIトランスポーズを設定することができます：

- 鍵盤：F#1 (パネル印字 = Transp) を押します。
- 数字 (0 - 9) がパネル印字された鍵盤：G3 - B4で入力し、右端の鍵盤：C5 (Enterとパネル印字) で目的の値 (-12 - +12) を設定します。この際、"0"とラベル印字された鍵盤でマイナス設定をします。例えば、-1を設定する場合、0 > 1 > Enterの順番に鍵盤をします。+1の場合は1 > Enterの順番に鍵盤を操作します。
- これでトランスポーズが設定され、Setupメニューは自動で解除されます。

*この操作はTransposeボタンに別の機能に割り当てた際に有効です。

オクターブ設定 - Octave - 鍵盤:G1

設定メニューでは以下の操作で、キーボードのオクターブレンジを設定することができます：

- 鍵盤：G1 (パネル印字 = Oct) を押します。
- 数字 (0 - 9) がパネル印字された鍵盤：G3 - B4で入力し、右端の鍵盤：C5 (Enterとパネル印字) で目的の値 (-3 - +4) を設定します。この際、"0"とラベル印字された鍵盤でマイナス設定をします。例えば、-1を設定する場合、0 > 1 > Enterの順番に鍵盤をします。+1の場合は1 > Enterの順番に鍵盤を操作します。
- これでトランスポーズが設定され、Setupメニューは自動で解除されます。

*この操作はOctaveボタンに別の機能に割り当てた際に有効です。

キーボードペロシティカーブ - Velocity Curve - 鍵盤:G#1

SE49では、4種類のペロシティカーブと3つの固定ペロシティを選ぶことができます。下表は各設定に関する情報です：

カーブ	設定番号	概要
Normal / ノーマル	1	一般的なカーブです。
Soft / ソフト	2	柔らかいタッチを強調するカーブです。
Hard / ハード	3	強いタッチを強調するカーブです。
Linear / リニア	4	ほぼ打鍵のままのペロシティを出力します。
127 Fixed / 127固定	5	打鍵の強さに関わらず、ペロシティ値：127を出力します。
100 Fixed / 100固定	6	打鍵の強さに関わらず、ペロシティ値：100を出力します。
64 Fixed / 64固定	7	打鍵の強さに関わらず、ペロシティ値：64を出力します。

ペロシティカーブの設定手順は以下の通りです：

- 鍵盤：G#1 (パネル印字 = Velocity Curve) を押します。
- 数字 (0 - 9) がパネル印字された鍵盤：G3 - B4で入力し、右端の鍵盤：C5 (Enterとパネル印字) で目的の値 (1 - 7) を設定します。
- これでペロシティカーブが設定され、Setupメニューは自動で解除されます。

パニック(オールノートオフ) - Panic - 鍵盤:A#1

Panic機能は全てのMIDIチャンネルにオールノートオフとリセットオールコントローラーの情報を送信する際に使用します。この機能は、音源が鳴りっぱなしになった時などのトラブルに使用します。実行するには、Setupメニューに入り、A#1の鍵盤(パネル印字 = Panic)を押します。情報送信後、Setupメニューは自動解除されます。

トランスポーズボタンのオプション設定 - Transpose Buttons - 鍵盤:C2-E2

TransposeボタンをMIDIプログラム情報の送信、グローバルMIDIチャンネルの変更などに使用できます。目的の機能にアクセスするためのボタン操作は以下の通りです:

- 設定メニューに入ります。
- 目的の鍵盤(C2 - E2)を押して、トランスポーズボタンの機能を設定します。
- 右端の鍵盤:C5 (Enterとパネル印字)で設定を確定します。
- これでトランスポーズボタンの設定が適用され、Setupメニューは自動で解除されます。

鍵盤	機能	設定値
C2	トランスポーズシフト (通常機能)	±12半音 (semitone)
C#2	グローバルMIDIチャンネルの変更	1 - 16
D2	MIDIプログラムチェンジ情報の送信	0 - 127
D#2	DAWトラックの選択	アップとダウン
E2	ソフトウェア音源の音色切り替え	アップとダウン

*MIDIプログラムチェンジは主にハードウェア音源の音色プリセットの切り替えに使用します。

*DAWトラックとソフトウェア音源の音色切り替えは、DAWインテグレーション対応のソフトウェア使用時に有効です。

*ソフトウェア音源(バーチャルインストゥルメント)によっては、音色切り替えに対応しない場合があります。

トランスポーズボタンのMMC設定 - 鍵盤:A2

非DAWインテグレーション対応のDAWで、Transposeボタンを使用したトランスポートをするためのボタン操作は以下の通りです:

- 設定メニューに入ります。
- 目的の鍵盤(A2)を押して、さらに数字鍵盤の3(C4)を押して、トランスポーズボタンのMMC機能を設定します。
- 右端の鍵盤:C5 (Enterとパネル印字)で設定を確定します。
- これでトランスポーズボタンの設定が適用され、Setupメニューは自動で解除されます。

ボタン	機能
Octave -	再生
Octave +	録音
Transpose Down	巻戻し
Transpose Down	停止

*設定を戻すには、もう一度同じ操作をします。

*MMCによる操作は、ProToolsやAbleton Liveなどに有効です。

SE25



SE25の場合、("S" + "2" ボタンを同時押しして)Setupメニューに入り、メニューオプションを選択し、必要に応じて黒鍵を使って数値を入力していきます。

*各メニューの詳細に関する記述はMIDIに関してご理解頂いていることを前提としています。もしMIDIの役割、用語や基礎的な知識に関してご不明の場合は、コントロール設定を行う前にMIDIに関する理解を深められることをお勧めします。

Setupメニューに入ると鍵盤のMIDIノート出力はミュートされ、メニューアクセスと設定に使用されます。

以下、各メニューの詳細と設定方法です。

デフォルトに戻る - Return to Default - 鍵盤:C1

選択した機能の設定値をデフォルト(初期状態)に戻す際に使用します。

キーボードベロシティカーブ - Velocity Curve - 鍵盤:C#1

SE25の鍵盤は、演奏タッチに合わせて3種類のベロシティカーブと選ぶことができます。下表は各設定に関する情報です：

カーブ	設定番号	概要
Normal / ノーマル	1	一般的なカーブです。
Soft / ソフト	2	柔らかいタッチを強調するカーブです。
Hard / ハード	3	強いタッチを強調するカーブです。

ベロシティカーブの設定手順は以下の通りです：

- 鍵盤：C#1 (パネル印字 = Velocity Curve) を押します。
- 数字 (0 - 9) がパネル印字された鍵盤：C#1 - A#2で入力し、右端の鍵盤：C3 (Enterとパネル印字) で目的の値 (1 - 3) を設定します。
- これでベロシティカーブが設定され、Setupメニューは自動で解除されます。

MIDIチャンネル設定 - Global MIDI Channel - 鍵盤:D1

SE25の演奏やコントロールに使用するグローバルMIDIチャンネルを設定します。手順は以下の通りです：

- 鍵盤：D1 (パネル印字 = Global Channel) を押します。
- 数字 (0 - 9) がパネル印字された鍵盤：C#1 - A#2で入力し、右端の鍵盤：C3 (Enterとパネル印字) でMIDIチャンネル (1 - 16) を設定します。

プログラムチェンジ送信 - Program Change - 鍵盤:D#1

設定メニューでは以下の操作で、プログラムチェンジを直接送ることができます：

- 鍵盤：D#1 (パネル印字 = Program) を押します。
- 数字 (0 - 9) がパネル印字された鍵盤：C#1 - A#2で入力し、右端の鍵盤：C3 (Enterとパネル印字) で目的のプログラム番号を設定します。
- これでプログラムチェンジが送信され、Setupメニューは自動で解除されます。

注意：機器によってはプログラム番号の表示方法が異なります。0 - 127ではなく、1 - 128の表示を使用する場合、MIDIプログラムチェンジの0 = 機器のプログラム1番、つまり"1"を足した番号の呼び出しになることを覚えておきましょう。

パート2プリセットのリコール - Recall - 鍵盤:E1

この機能はSE25のパート2機能("2"ボタンをオンにした際に適用される効果)を設定します。全部で5つのプリセットが用意され、ユーザーレベルでの書き換えが可能です。デフォルト状態で提供されているプリセットの設定は下表の通りになります:

	1(デフォルト)	2	3	4	5
Octave	2	0	-1	1	3
Channel	0	0	2	2	0
Transpose	0	7	0	0	0
Layer	Off	On	On	Off	On
Latch	Off	Off	Off	Ob	Off

プリセットの設定方法は次の通りです:

- 鍵盤: E1 (パネル印字 = Recall) を押します。
- 数字 (0 - 9) がパネル印字された鍵盤: C#1 - A#2 で入力し、右端の鍵盤: C3 (Enter とパネル印字) で目的のプリセット番号 (1-5) を設定します。
- これでプログラムチェンジが送信され、Setupメニューは自動で解除されます。

プリセット保存 - Store - 鍵盤:F1

SE25のパート2機能のプリセットは、ユーザーレベルで書き換え可能です。手順はリコールをする際と同じです。

プリセットの設定方法は次の通りです:

- 鍵盤: F1 (パネル印字 = Store) を押します。
- 数字 (0 - 9) がパネル印字された鍵盤: C#1 - A#2 を使って、目的のプリセット番号 (1-5) を選び、右端の鍵盤: C3 (Enter とパネル印字) で決定します。
- これで現在の設定が、選択したプリセットスロットに保存され、Setupメニューは自動で解除されます。

パニック(オールノートオフ) - Panic - 鍵盤:F#1

Panic機能は全てのMIDIチャンネルにオールノートオフとリセットオールコントローラーの情報を送信する際に使用します。この機能は、音源が鳴りっぱなしになった時などのトラブルに使用します。実行するには、Setupメニューに入り、A#1の鍵盤(パネル印字 = Panic)を押します。情報送信後、Setupメニューは自動解除されます。

ピッチベンドボタン(PB1とPB2)のオプション設定 - 鍵盤:A1-D2

2つのPBボタンを様々なMIDI情報の送信に使用できます。目的の機能にアクセスするためのボタン操作は以下の通りです:

- 設定メニューに入ります。
- 目的の鍵盤 (A1 - D2) を押して、PBボタンの機能を設定します。
- これで機能が設定され、Setupメニューは自動で解除されます。

鍵盤	機能	操作範囲
A1	ピッチベンド(デフォルト設定、通常機能)	ピッチベンドアップまたはダウン(範囲固定)
A#1	トランスポーズシフト	±12半音 (semitone)
B1	MIDI ボリューム (MIDI CC#7)	127-0
C2	MIDI バン (MIDI CC#10)	0-127
C#2	トラック切り替え (DAWインテグレーション時)	
D2	音色切り替え (DAWインテグレーション時)	

*DAWトラックとソフトウェア音源の音色切り替えは、DAWインテグレーション対応のソフトウェア使用時に有効です。

*ソフトウェア音源(バーチャルインストゥルメント)によっては、音色切り替えに対応しない場合があります。

パート2ボタン設定 - 鍵盤:E2-G#2

パート2機能("2"ボタンをオンにした際に適用される効果)は、コンパクトなSE25の演奏表現を豊かにする特別な機能です。この機能によって、簡単にオクターブシフトやトランスポーズを行ったり、ハーモニー演奏を行ったり、違うMIDIチャンネルの音源に送って別の音を同時に重ねて演奏したりすることが、ボタン一つで行えます。

SE25の"2"とラベル印字されたボタンを押すと、あらかじめ用意されたプリセットの設定内容に従った効果が得られます。このプリセットはユーザープログラムミングも可能で、下表に示された5項目の機能を変更することができます。

鍵盤	機能	設定範囲
E2	オクターブシフト	-4 - +5オクターブ
F2	パート2レイヤーのMIDIチャンネル	0-16、0 = グローバルチャンネル
F#2	トランスポーズシフト	±12半音 (semitone)
G2	パート2レイヤーの有効	オン/オフ
G#2	ノートオンラッチの有効	オン/オフ

設定方法は次の通りです：

- ・ 設定メニューに入ります。
- ・ 目的の鍵盤 (E2 - G#2) を押して、2ボタンの機能を設定します。
- ・ これで機能が設定され、Setupメニューは自動で解除されます。

パート2機能の設定と活用例：

単純にキーボードの演奏範囲を2オクターブ上にシフトする場合、Oct=2、Chn.=0、Transp=0、Layer=Off、Latch=0に設定します。

この設定で、Layerをオンにすると、同じ音で2オクターブ上のハーモナイズ演奏になります。

ラッチ機能はノートによるループトリガーに適していますので、オクターブシフト+ラッチオンで、演奏に影響しない箇所にアサインしたループサウンドのオン/オフに適しています。あるいはレイヤーもオンにしてペダルのように、パート2ボタンでドローンサウンドを鳴らし、発音させたまま、パート2ボタンを解除して、そのままメロディを演奏する際にも有用です。

Sボタン設定 - 鍵盤:A#2-B2

"S"ボタンは通常、サスティンペダルの代わりとして使用します。

このボタンは下表の通りの機能に設定変更が可能です。

鍵盤	機能
A#2	サスティン (MIDI CC#64)
B2	モジュレーション (MIDI CC#1)

設定方法は次の通りです：

- ・ 設定メニューに入ります。
- ・ 目的の鍵盤 (A#2 - B2) を押して、Sボタンの機能を設定します。
- ・ これで機能が設定され、Setupメニューは自動で解除されます。

ファクトリーリストア

以下の操作でSE25/49を工場出荷時の状態に戻すことができます：

- 2つのオクターブボタン(OCT- と OCT+) を押しながら、本体の電源を投入します。
- 電源投入後、ボタンを約3秒ほど押したままにします。

この操作は、最初から設定をしたい場合などに便利です。

DAW設定ガイド - Bitwig

SE25/49はBitwigインテグレーションファイルで、バージョン2.0以降のBitwig Studio及びBitwig 8-Trackと連動し、Windows 7以降またはOS X 10.6以降の環境で動作します。また、サポートに連絡することで、Linux環境でも扱うことが可能です。

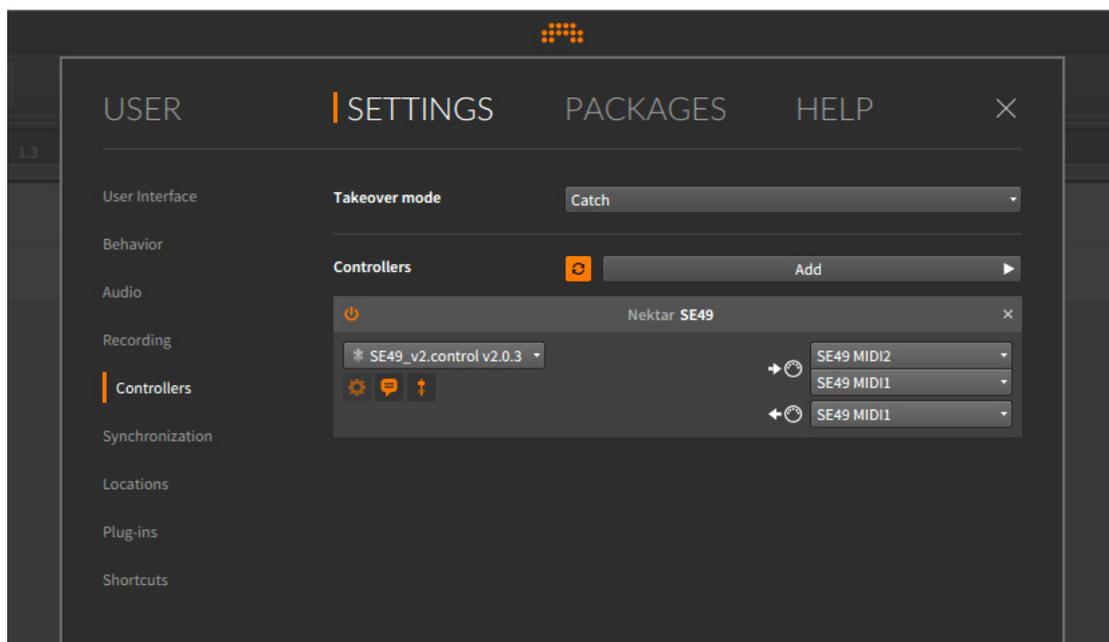
設定

SE25/49とBitwig Studio、Bitwig 8-Trackの設定は以下の通りです：

- まず、Bitwigのインストールを完了し、最低でも一度起動しておきます。これはBitwig自体の動作に必要なファイルをインストールするための必須作業です。
- 次にBitwigを終了した状態で、ダウンロードをしたインテグレーションファイル：Impact_GXP_SE_Bitwig_support*のインストーラーを実行し、画面に従ってインストールを完了します。
- SE25/49をコンピューターに接続し、電源を投入します。
- Bitwigを起動し、SETTINGS画面から、Controllersタブを開きます。
- 自動検知されているSE25/49が表示されます。“ADD”ボタンをクリックし、設定します。
- 完了したら、“OK”ボタンをクリックし、デバイス設定を終了します。

*Nektar DAWインテグレーションのファイル名は、予告なく変更します。

画面例のようになっていれば、設定完了です。



DAW設定ガイド - Bitwig と SE25/49

インストール、設定を完了したらSE25/49を使用して、Bitwig StudioまたはBitwig 8-Trackで以下の操作が行えます。

下表はBitwigの操作一覧です。まずは再生ボタンを押してシーケンスの再生が反応するかどうかを確認の上、表の機能が正しく動作するかどうか見てみましょう。

ボタン	パラメーター
◀◀	1小節巻戻し
▶▶	1小節早送り
▶	再生、再操作でポーズ
●	録音

*選択トラックにデバイスが設定されている場合のみ機能します。

ボリューム操作 (SE49のみ)

フェーダーは選択されているトラックの音量調整に使用します。

操作をすると、Bitwigのミキサー上の選択トラックのボリューム設定が連動します。トラックを選択したり、作成したりすると、フェーダーは自動でそのトラックのボリューム操作に設定されます。

DAW設定ガイド - Cubase/Nuendo

SE25/49はCubaseインテグレーションファイルで、バージョン5以降のCubase、またはそれに準ずるバージョンのNuendoと連動し、Windows 7以降またはOS X 10.6以降の環境で動作します。ここではCubaseで解説しますが、Nuendoでも同様にご利用いただけます。

設定

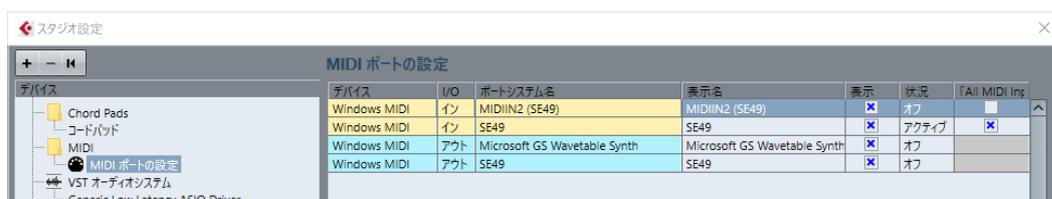
SE25/49とCubaseの設定は以下の通りです：

- Cubaseを起動していない状態で、ダウンロードをしたインテグレーションファイル：Impact_GXP_SE_Steinberg_support*のインストーラーを実行し、画面に従ってインストールを完了します。
- SE25/49をコンピューターに接続し、電源を投入します。
- Cubaseを起動し、スタジオ > スタジオ設定 > MIDIポートの設定を開きます。(Cubaseのバージョンによってはデバイスメニュー > デバイス設定)
- SE25/49の2番目の入力ポート (Windows = "MIDIIN2 (SE49/25)", Mac = "SE49/25 MIDI2") で、"In 'All' MIDI" 欄のチェックを外します。(Xがない状態)
- SE25/49がリモートデバイスの箇所にリスト表示されていることを確認します。
- 正しく設定されていることを確認したら、"OK" ボタンをクリックしてデバイス設定を閉じます。

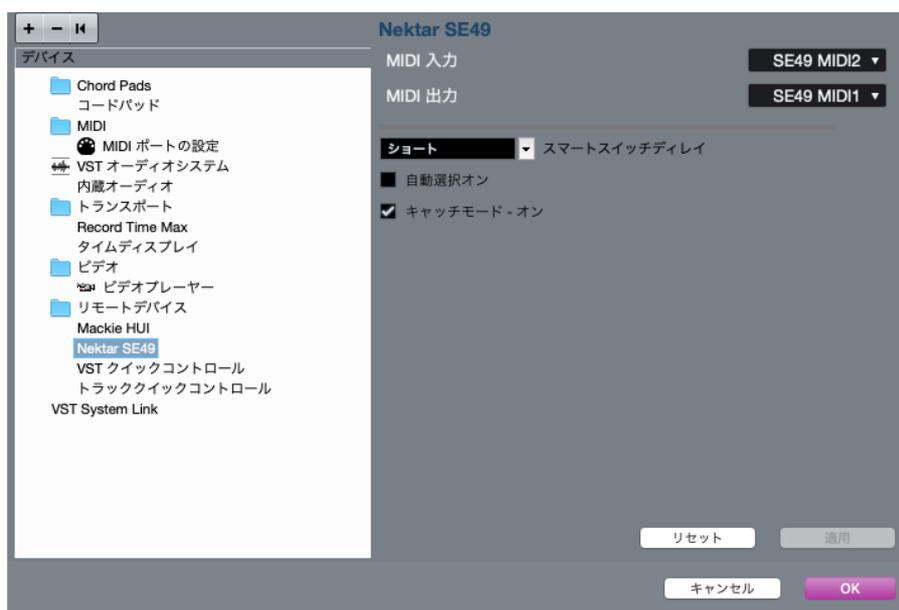
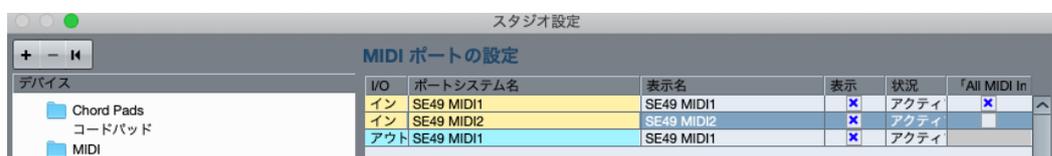
*Nektar DAWインテグレーションのファイル名は、予告なく変更します。

正しく設定されると画面例のように表示されます。

Windows



OS X



DAW設定ガイド - Cubase/Nuendo と SE25/49

インストール、設定を完了したらSE25/49を使用して、CubaseまたはNuendoで以下の操作が行えます。

下表はCubase/Nuendoの操作一覧です。まずは再生ボタンを押してシーケンスの再生が反応するかどうかを確認の上、表の機能が正しく動作するかどうか見てみましょう。

ボタン	パラメーター
◀◀	1小節巻戻し
▶▶	1小節早送り
▶	再生、再操作でポーズ
●	録音

トラック&パッチ操作

Setupメニューでトランスポートボタンをトラックとパッチナビゲーションに使用することが可能です。この際、パッチ切り替え機能は、対応しないVSTインストゥルメントが存在します。ほとんどのSteinbergプラグインは対応していますが、全てのメーカーがこの規格に準拠しているわけではありません。まずは標準装備のプラグインでご確認ください。

ボリューム操作(SE49のみ)

フェーダーは選択されているトラックの音量調整に使用します。

操作を行うと、Cubaseのミキサー上の選択トラックのボリューム設定が連動します。トラックを選択したり、作成したりすると、フェーダーは自動でそのトラックのボリューム操作に設定されます。

DAW設定ガイド - Digital Performer

SE25/49はMOTUインテグレーションファイルで、バージョン8以降のDigital Performerと連動し、Windows 7以降またはOS X 10.6以降の環境で動作します。

設定

SE25/49とDigital Performerの設定は以下の通りです：

- Digital Performerを起動していない状態で、ダウンロードをしたインテグレーションファイル: Impact_GXP_SE_MOTU_support*のインストーラーを実行し、画面に従ってインストールを完了します。
- SE25/49をコンピューターに接続し、電源を投入します。
- Digital Performerを起動し、プロジェクトの作成、もしくは既存プロジェクトを開きます。
- セットアップメニューからコントロールサーフェスの設定...を開きます。
- “+”アイコン(アウトポートの右横)をクリックし、デバイスを追加します。
- “ドライバ”の項目から、Nektar SE25またはSE49を選択します。
- “ユニット”の箇所はMulti MIDIを設定します。
- “インポートポート”に2番目のポート (Windows = MIDIIN2 (SE49/25) (エミュレート済み) -16、Mac = SE49/25 MIDI2-16) を設定します。
- “アウトポート”は1番目のポート (Windows = SE49/25 (エミュレート済み)、Mac = SE49/25 MIDI1) を設定します。
- 完了したら、“OK”をクリックしてコントロールサーフェス設定画面を閉じます。

*Nektar DAWインテグレーションのファイル名は、予告なく変更します。

正しく設定されると画面例のように表示されます。

Windows



OS X



DAW設定ガイド - Digital Performer と SE25/49

インストール、設定を完了したらSE25/49を使用して、Digital Performerで以下の操作が行えます。

下表はDigital Performerの操作一覧です。まずは再生ボタンを押してシーケンスの再生が反応するかどうかを確認の上、表の機能が正しく動作するかどうか見てみましょう。

ボタン	パラメーター
◀◀	1小節巻戻し
▶▶	1小節早送り
▶	再生、再操作でポーズ
●	録音

ボリューム操作(SE49のみ)

フェーダーは選択されているトラックの音量調整に使用します。

操作を行うと、Digital Performerのミキサー上の選択トラックのボリューム設定が連動します。トラックを選択したり、作成したりすると、フェーダーは自動でそのトラックのボリューム操作に設定されます。

メモ: Digital Performerではインストゥルメントトラックのボリュームパラメーターの操作はできませんが、MIDI CC#7を送信し、ボリュームのMIDIコントロールが可能。この場合、ボリューム情報はインストゥルメントトラックのボリュームオートメーションではなく、MIDIトラックのMIDI CCとして記録されます。

DAW設定ガイド - FL Studio

SE25/49はバージョン11.2以降のFL Studioと連動し、Windows 7とMac OSX 10.6以降の環境で動作します。もし、Controller Typeのリストで"Nektar SE25/49"が表示されない場合は、FL Studioをアップデートしてください。

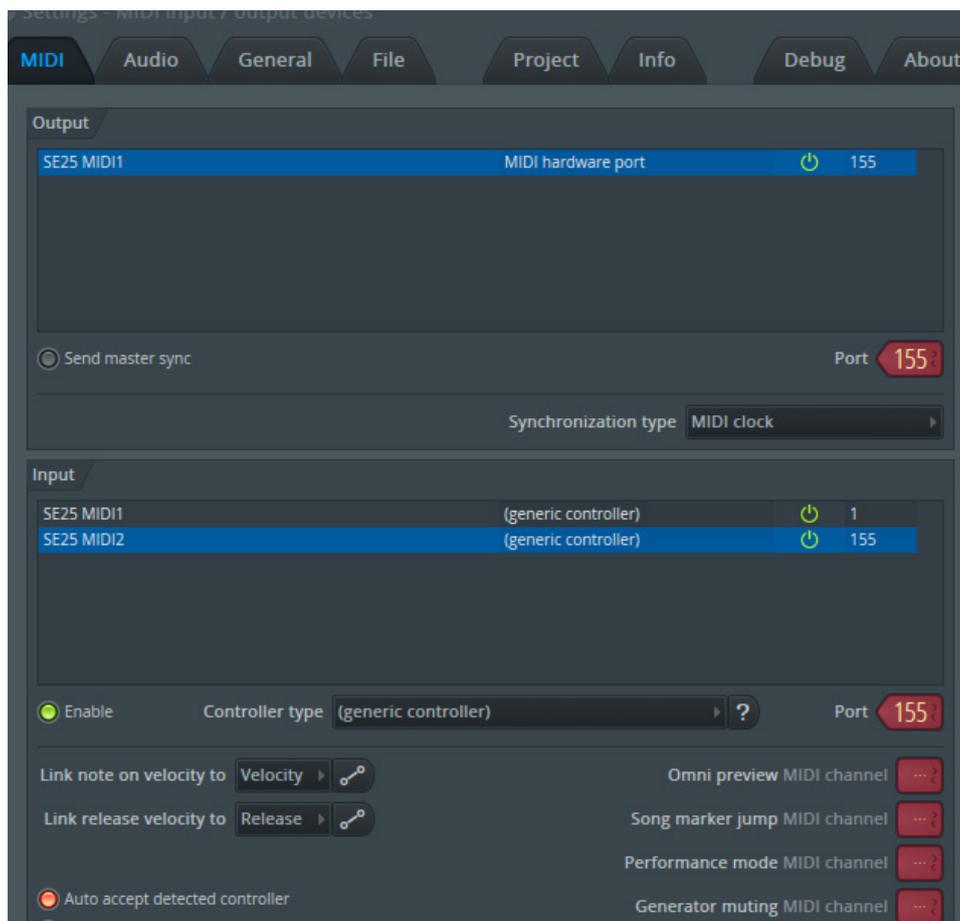
設定

SE49/25とFL Studioの設定は以下の通りです：

- SE25/49をコンピューターに接続し、電源を投入します。
- FL Studioを起動し、OptionsメニューからMIDI Settingsを開きます。
- SE25/49のポートを画面例の通りに設定されます。ポートが表示されない場合は画面下の“Rescan devices”をクリックします。
- SE25/49の出力ポートを“155”に設定します。
- SE25/49の入力ポートを有効(Enable)にし、Controller Typeを“(generic controller)”に設定します。
- 2番目の入力ポート：MIDIIN2 (SE49/25) も有効にし、Controller Typeを“Nektar Impact series”^{*}、portを“155”に設定します。
- 画面例の通りに設定したら、画面を閉じて、MIDI設定を終了します。

これで設定は完了です。コントローラーを操作して正しく設定されているかどうか確認をします。

^{*}もし、“Nektar Impact series”がController Typeのリストに無い場合、FL Studioをアップデート(もしくはアップグレード)する必要があります。



DAW設定ガイド - FL Studio と SE25/49

インストール、設定を完了したらSE49/25を使用して、FL Studioで以下の操作が行えます。

下表はFL Studioの操作一覧です。まずは再生ボタンを押してシーケンスの再生が反応するかどうかを確認の上、表の機能が正しく動作するかどうか見てみましょう。

ボタン	パラメーター
◀◀	巻戻し
▶▶	早送り
▶	再生、再操作でポーズ
●	録音

トラック&パッチ操作

Setupメニューでトランスポートボタンをトラックとパッチナビゲーションに設定した場合、パッチ切り替えは、FL Studioのチャンネルナビゲーション操作として機能します。

ボリューム操作 (SE49のみ)

フェーダーは選択されているトラックの音量調整に使用します。

操作をすると、FL Studioのミキサー上の選択トラックのボリューム設定が連動します。トラックを選択したり、作成したりすると、フェーダーは自動でそのトラックのボリューム操作に設定されます。

DAW設定ガイド - GarageBand

SE25/49のAppleインテグレーションはバージョン6以降のGarageBandと連動します。

設定

SE25/49とGarageBandの設定は以下の通りです：

- GarageBandを起動していない状態で、ダウンロードをしたインテグレーションファイル:Impact_GXP_SE_Apple_support*のインストーラーを実行し、画面に従ってインストールを完了します。
- SE25/49をコンピューターに接続し、電源を投入します。
- GarageBandを起動し、新しいプロジェクトを作成します。
- オーディオまたはソフトウェア音源トラックを作成します。

*Nektar DAWインテグレーションのファイル名は、予告なく変更します。

以上で設定完了です。

GARAGEBANDの操作

インストール、設定を完了したらSE25/49を使用して、GarageBandで以下の操作が行えます。

下表はGarageBandの操作一覧です。まずは再生ボタンを押してシーケンスの再生が反応するかどうかを確認の上、表の機能が正しく動作するかどうか見てみましょう。

ボタン	パラメーター
◀◀	1小節巻戻し
▶▶	1小節早送り
▶	再生、再操作でポーズ
●	録音

ボリューム操作 (SE49のみ)

フェーダーは選択されているトラックの音量調整に使用します。

操作をすると、GarageBandのミキサー上の選択トラックのボリューム設定が連動します。トラックを選択したり、作成したりすると、フェーダーは自動でそのトラックのボリューム操作に設定されます。

DAW設定ガイド - Logic

SE25/49のAppleインテグレーションはバージョン8以降のLogicと連動し、OS X 10.6以降の環境で動作します。

設定

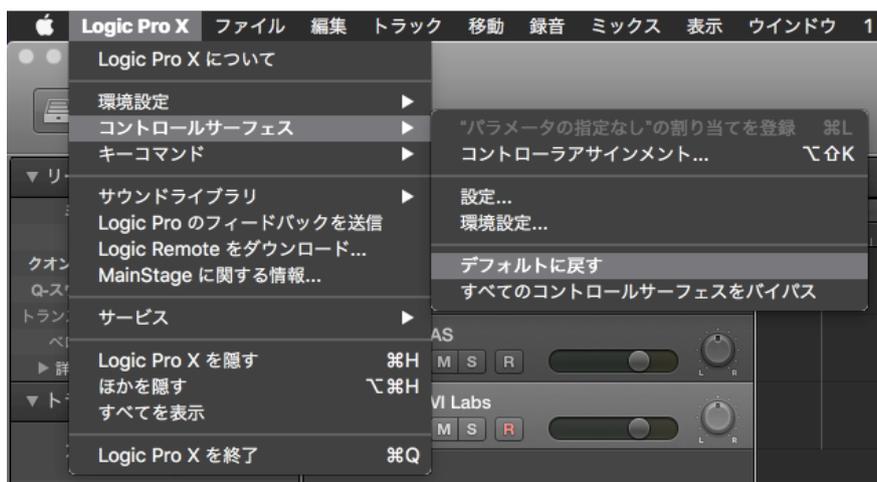
SE25/49とLogicの設定は以下の通りです：

- Logicを起動していない状態で、ダウンロードをしたインテグレーションファイル:Impact_GXP_SE_Apple_support*のインストーラーを実行し、画面に従って、インストールを完了します。
- SE25/49をコンピューターに接続し、電源を投入します。
- Logicを起動し、プロジェクト、そして最低でもトラックを1つ作成します。
- Logicは初回起動時にコントロールサーフェスの画面を表示します。画像例のように表示されていれば、正しくインストールされたことになりますので、問題がなければ画面を閉じます。
- 念のために“Logic Pro”メニューから“コントロールサーフェス”、そして“デフォルトに戻す”を選択し、実行します。

*Nektar DAWインテグレーションのファイル名は、予告なく変更します。

これで設定完了です。

*デフォルトに戻す操作は、SE25/49をLogic以外のインテグレーション対応DAWを使用した後に、Logicで使用する場合に行う必要があります。



DAW設定ガイド - Logic と SE25/49

インストール、設定を完了したらSE25/49を使用して、Logicで以下の操作が行えます。

下表はLogicの操作一覧です。まずは再生ボタンを押してシーケンスの再生が反応するかどうかを確認の上、表の機能が正しく動作するかどうか見てみましょう。

ボタン	パラメーター
◀◀	1小節巻戻し
▶▶	1小節早送り
▶	再生、再操作でポーズ
●	録音

ボリューム操作 (SE49のみ)

フェーダーは選択されているトラックの音量調整に使用します。

操作をすると、Logicのミキサー上の選択トラックのボリューム設定が連動します。トラックを選択したり、作成したりすると、フェーダーは自動でそのトラックのボリューム操作に設定されます。

DAW設定ガイド - Mixcraft 7

SE25/49 と Acoustica Mixcraft 7 を連動させるには以下の手順に従います：

- ダウンロードをしたインテグレーションファイル：Nektar SE49.csv、または Nektar SE25.csv を展開し、以下の場所に置きます。
c:\ProgramData\Acoustica\Mixcraft\control-surfaces
- SE25/49をコンピューターに接続し、電源を投入します。
- Mixcraft を起動し、Mixcraft メニューから Mix/MIDI Control Surface で SE25/49 がコントロールサーフェスとして表示されているかを確認します。

正しく見えていれば、設定は完了です。

MIXCRAFT の操作

インストール、設定を完了したらSE25/49を使用して、Mixcraftで以下の操作が行えます。

下表はMixcraftの操作一覧です。まずは再生ボタンを押してシーケンスの再生が反応するかどうかを確認の上、表の機能が正しく動作するかどうか見てみましょう。

ボタン	パラメーター
◀◀	1小節巻戻し
▶▶	1小節早送り
▶	再生、再操作でポーズ
●	録音

ボリューム操作 (SE49のみ)

フェーダーはマスター音量調整に使用します。

DAW設定ガイド - Reaper

SE25/49はReaperインテグレーションファイルで、バージョン4.59以降のReaperと連動し、Windows 7以降またはOS X 10.6以降の環境で動作します。

設定

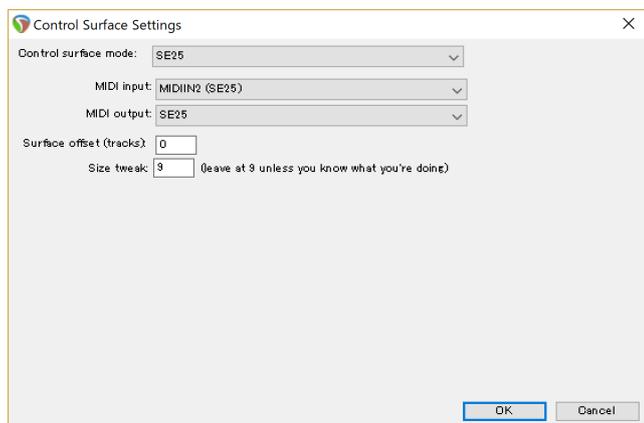
SE25/49とReaperの設定は以下の通りです：

- まず、Reaperのインストールを完了し、最低でも一度起動しておきます。これはReaper自体の動作に必要なファイルをインストールする為の必須作業です。
- 次にReaperを終了した状態で、ダウンロードをしたインテグレーションファイル: Impact_GXP_SE_Reaper_support*のインストーラーを実行し、画面に従ってインストールを完了します。
- SE25/49をコンピューターに接続し、電源を投入します。
- Reaperを起動し、Optionsメニューから、Preferences、押してControl Surfacesを開きます。
- “Add”をクリックし、ポップアップ画面でImpactを“Control surface mode”のリストから選び、ReaperがSE25/49を検知し、ポート類の設定が適切に自動設定されていることを確認し、“OK”をクリックして画面を閉じます。
- 次に Preferences > Audio/MIDI Devicesで、SE25/49のポート1を有効にします。このモードは“Enable+Control”になっている必要があります。残りのポートはオフにします。
- “Apply”をクリックし、設定を適用します。

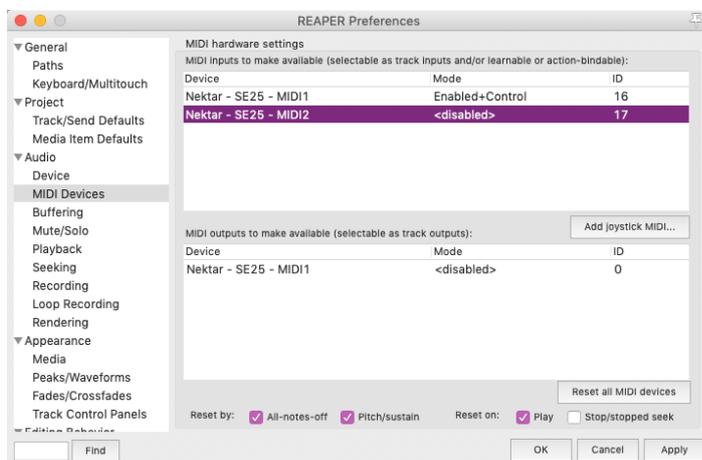
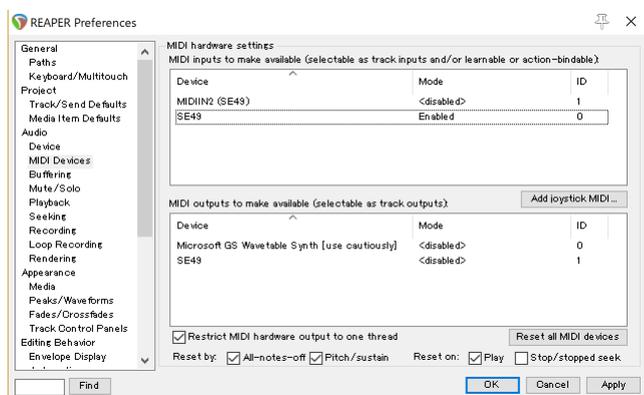
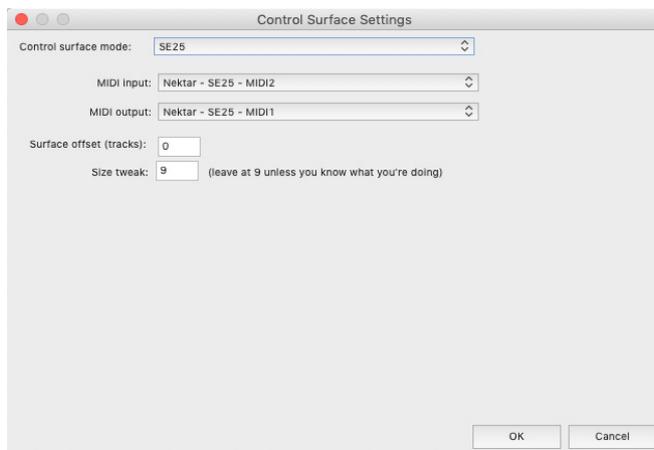
*Nektar DAWインテグレーションのファイル名は、予告なく変更します。

画面例のようになっていれば、設定完了です。

Windows



OS X



DAW設定ガイド - Reaper と SE25/49

インストール、設定を完了したらSE25/49を使用して、Reaperで以下の操作が行えます。

下表はReaperの操作一覧です。まずは再生ボタンを押してシーケンスの再生が反応するかどうかを確認の上、表の機能が正しく動作するかどうか見てみましょう。

ボタン	パラメーター
◀◀	1小節巻戻し
▶▶	1小節早送り
▶	再生、再操作でポーズ
●	録音

ボリューム操作 (SE49のみ)

フェーダーは選択されているトラックの音量調整に使用します。

操作をすると、ミキサー上の選択トラックのボリューム設定が連動します。トラックを選択したり、作成したりすると、フェーダーは自動でそのトラックのボリューム操作に設定されます。

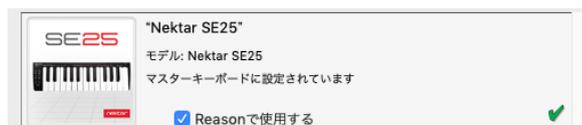
DAW設定ガイド - Reason

SE25/49はReasonインテグレーションファイルで、バージョン5以降のReasonと連動し、Windows 7以降またはOS X 10.6以降の環境で動作します。

設定

SE25/49とReasonの設定は以下の通りです：

- Reasonを起動していない状態で、ダウンロードをしたインテグレーションファイル：Impact_GXP_SE_Reason_support*のインストーラーを実行し、画面に従って、インストールを完了します。
- SE25/49をコンピューターに接続し、電源を投入します。
- Reasonを起動し、環境設定からコントローラーを開きます。
- “コントローラーを自動設定”をクリックし、しばらく待ちます。
- Reasonのコントローラー画面にSE25/49が表示され、“Reasonで使用する”がチェックされていることを確認します。
- 環境設定画面を閉じて、設定を終了します。



*Nektar DAWインテグレーションのファイル名は、予告なく変更します。

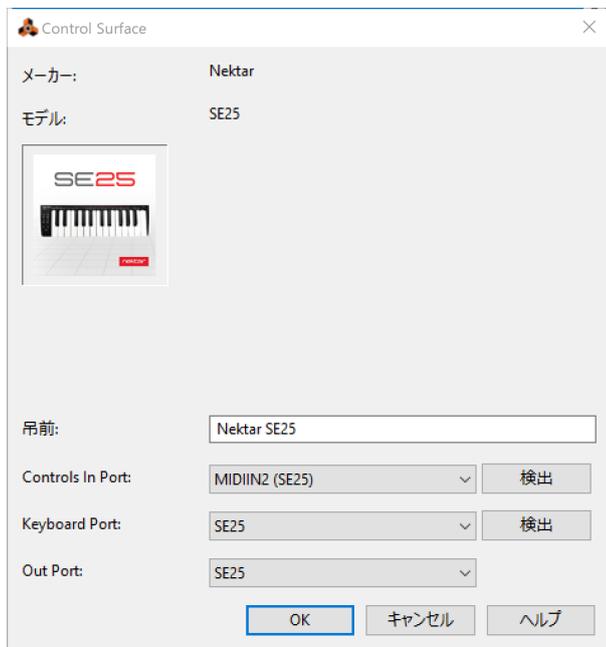
これで設定は完了です。

手動設定

ReasonでSE25/49のMIDIポートを手動設定をする場合、以下の手順に従います：

- Reasonを起動し、環境設定からコントローラーを開き、“追加”ボタンを押します。
- SE25/49を追加し、画像例の通りにポートを設定します。

Windows



OS X



DAW設定ガイド - Reason と SE25/49

インストール、設定を完了したらSE25/49を使用して、Reasonで以下の操作が行えます。

下表はReasonの操作一覧です。まずは再生ボタンを押してシーケンスの再生が反応するかどうかを確認の上、表の機能が正しく動作するかどうか見てみましょう。

ボタン	パラメーター
◀◀	1小節巻戻し
▶▶	1小節早送り
▶	再生、再操作でポーズ
●	録音

ボリューム操作 (SE49のみ)

フェーダーは選択されているトラック上のデバイス音量調整に使用します。

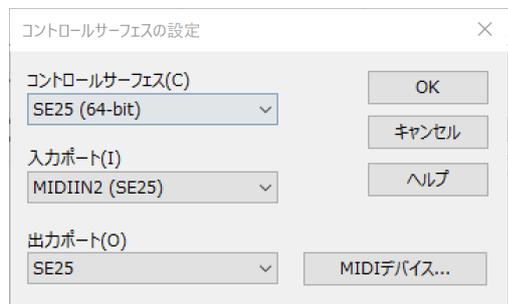
DAW設定ガイド - Sonar

SE25/49はバージョン8.5以降のSonarと連動し、Windows 7以降の環境で動作します。

設定

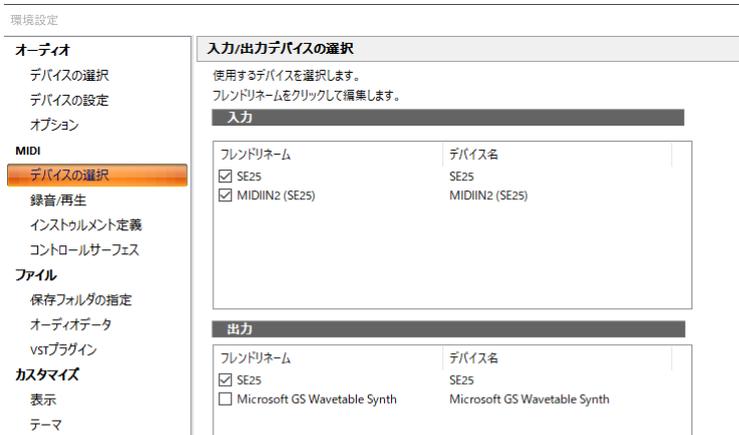
SE25/49とCakewalk Sonarの設定は以下の通りです：

- Sonarを起動していない状態で、ダウンロードをしたインテグレーションファイル：Impact_GXP_SE_Cakewalk_support*のインストーラーを実行し、画面に従って、インストールを完了します。
- SE25/49をコンピューターに接続し、電源を投入します。
- Sonarを起動し、編集 > 環境設定 > MIDIのデバイスをクリックし設定を表示します。
- 入力の項目でSE25/49とMIDIIN2 (SE25/49)、出力の項目でSE25/49にチェックが入っていることを確認し、“適用”ボタンを押します。
- 続けてSonarの (編集 > 環境設定 > MIDIの) コントロールサーフェスをクリックし設定を表示します。
- 画面右上の黄色の星アイコンをクリックし、コントローラー/サーフェス設定画面を開き、次の通りに設定します：
 コントローラー/サーフェス：SE25/49
 入力ポート：MIDIIN2 (SE25/495)
 出力ポート：SE25/49
- 設定完了したら、OKボタンをクリックして画面を閉じます。
- コントロールサーフェスが正しく設定されると画面のように表示されます。問題なければ“適用”ボタンを押し、そして環境設定画面を閉じます。



*Nektar DAWインテグレーションのファイル名は、予告なく変更します。

これで設定は完了です。



DAW設定ガイド - Sonar と SE25/49

インストール、設定を完了したらSE25/49を使用して、Sonarで以下の操作が行えます。

下表はSonarの操作一覧です。まずは再生ボタンを押してシーケンスの再生が反応するかどうかを確認の上、表の機能が正しく動作するかどうか見てみましょう。

ボタン	パラメーター
◀◀	1小節巻戻し
▶▶	1小節早送り
▶	再生、再操作でポーズ
●	録音

ボリューム操作 (SE49のみ)

フェーダーは選択されているトラックの音量調整に使用します。

操作をすると、ミキサー上の選択トラックのボリューム設定が連動します。トラックを選択したり、作成したりすると、フェーダーは自動でそのトラックのボリューム操作に設定されます。

DAW設定ガイド - Studio One

SE25/49はPresonusインテグレーションファイルで、バージョン3以降のStudio Oneと連動し、Windows 7以降またはOS X 10.6以降の環境で動作します。ただし、最新バージョンにアップデートすることをオススメしています。

設定

SE25/49とPresonus Studio Oneの設定は以下の通りです：

- Studio Oneを起動していない状態で、ダウンロードをしたインテグレーションファイル:Impact_GXP_SE_Presonus_support*のインストーラーを実行し、画面に従って、インストールを完了します。
- SE25/49をコンピューターに接続し、電源を投入します。
- Studio Oneを起動し、“環境設定”から“外部デバイス設定”を開きます。ここで画面上にSE25/49のデバイスが2つ見えていれば、“OK”ボタンをクリックします。
- 新しいプロジェクトの作成、または既存のプロジェクトを開きます。
- SE25/49上の再生ボタンを押してStudio Oneのシーケンスが連動するかどうを確認します。問題なければ、設定は終了です。

*Nektar DAWインテグレーションのファイル名は、予告なく変更します。



トラブルシューティング:もし、画面上にSE25/49が1つ、あるいは何も無い場合、以下の手順に従って手動で設定します：

- “環境設定”から“外部デバイス設定”を開きます。
- “追加”ボタンをクリックして手動でデバイスを追加します。
- 画面から見失っている“SE25/49 … Control”と“SE25/49… Keyboard”をNektarフォルダーから見つけ出し、選択の上、OKボタンをクリックします。
- 設定後、“受信元”と“送信先”ポートの設定が以下の通りになっていることを確認します：

OS X環境

SE25/49 … Keyboard > 受信元 = SE25/49 … Port 1 / 送信先 = SE25/49 … Port 1

SE25/49__ Control > 受信元 = SE25/49… Port 2 / 送信先 = なし

Windows 環境

SE25/49 … Keyboard > 受信元 = SE25/49… / 送信先 = SE25/49 …

SE25/49__ Control > 受信元 = MIDIIN2 (SE25/49…) / 送信先 = なし

- 問題なければ“OK”ボタンをクリックします。

DAW設定ガイド - Studio One と SE25/49

インストール、設定を完了したらSE25/49を使用して、Studio Oneで以下の操作が行えます。

下表はStudio Oneの操作一覧です。まずは再生ボタンを押してシーケンスの再生が反応するかどうかを確認の上、表の機能が正しく動作するかどうか見てみましょう。

ボタン	パラメーター
◀◀	1小節巻戻し
▶▶	1小節早送り
▶	再生、再操作でポーズ
●	録音

ボリューム操作 (SE49のみ)

フェーダーは選択されているトラックの音量調整に使用します。

操作をすると、ミキサー上の選択トラックのボリューム設定が連動します。トラックを選択したり、作成したりすると、フェーダーは自動でそのトラックのボリューム操作に設定されます。

Nektar DAWインテグレーションを使用しないトランスポート設定 (SE49のみ)

Nektar DAWインテグレーションファイルによって、SE25/49のトランスポートコントロールは自動でDAWのトランスポートの操作に割り当てられます。もし、ご利用のDAWがこれに対応しない場合、SE49とDAW側でMIDI Machine Control (MMC) の設定をすることで、トランスポートボタンで操作することが可能です。

以下の操作で、SE49はMIDI Machine Control (MMC) 情報を扱うことが可能になります：

- 設定メニューに入ります。
- 目的の鍵盤 (A2) を押して、さらに数字鍵盤の3 (C4) を押して、トランスポーズボタンのMMC機能を設定します。
- 右端の鍵盤：C5 (Enterとパネル印字) で設定を確定します。
- これでトランスポーズボタンの設定が適用され、Setupメニューは自動で解除されます。

ボタン	機能
Octave -	再生
Octave +	録音
Transpose Down	巻戻し
Transpose Down	停止

*設定を戻すには、もう一度同じ操作をします。

www.hookup.co.jp

HOOK UP, INC.

日本総輸入代理店株式会社フックアップ
Designed by Nektar Technology, Inc
Made in China

nektar